

2 - 7	表現の場の工夫 ~「スピーチ・暗唱集会」の取組~
-------	------------------------------------

1 はじめに

へき地小規模校に共通する課題に、児童の表現力の育成が挙げられる。学級に極少数の児童しか在籍していないため、友達の発表を見たり聞いたりする中で多彩な表現方法に触れ、それを学び取る機会に乏しい。また、感想交流の場面においても同様である。

表現の場を確保する取組はこれまでも各学年が年1回1単位時間を使って行っていたが、回数が各児童1回限り10分程度と少ない上に準備も大掛かりなため、これ以上、同様の機会を増やすことは困難であった。そこで、準備に時間をかけず気軽に発表でき、感想交流できる場として「スピーチ・暗唱集会」を設定し、実施することとした。

2 集会の実際

(1) 概要

毎月第4火曜日の朝の学習時間を「スピーチ・暗唱集会」の時間に定め、15分間のショート集会として実施している。毎回低・中・高学年から1~2人発表し、学期ごとに各児童が2回程度の発表機会を得られるようにしている。発表の内容は2分程度のスピーチもしくは、詩等の暗唱を選択して行う。司会進行から最後の簡単な講評までを高学年児童が行う、自治的・自主的な活動としている。

(2) これまでの主な発表内容

ア スピーチ

- 修学旅行や自然の家、遠足の思い出
- 水泳大会や陸上大会、運動会等への意気込みや目標
- 学習内容の紹介や感想

イ 暗唱

- 授業で学習した詩
- 読書の時間に見つけた詩集の詩
- 学級で毎月取り組んでいる今月の詩
- 古典文学（竹取物語、桃太郎、浦島太郎、枕草子）



写真 話者に質問や感想発表をする児童

3 成果（ ）と課題（ ）

スピーチの内容に合わせて写真や実物を示したり、クイズを取り入れたりしながら発表するなど、工夫が見られるようになった。

感想発表の際、同様の経験がある場合は、自分の経験も織り交ぜながら感想を発表できるようになってきた。

時間が短く、全員の感想を拾い上げることができない。

活動が2年目になり、発表内容がややマンネリ化してきている。創立百周年の行事など、新しい題材にも挑戦させたい。